

貧困・苦境児童を支える

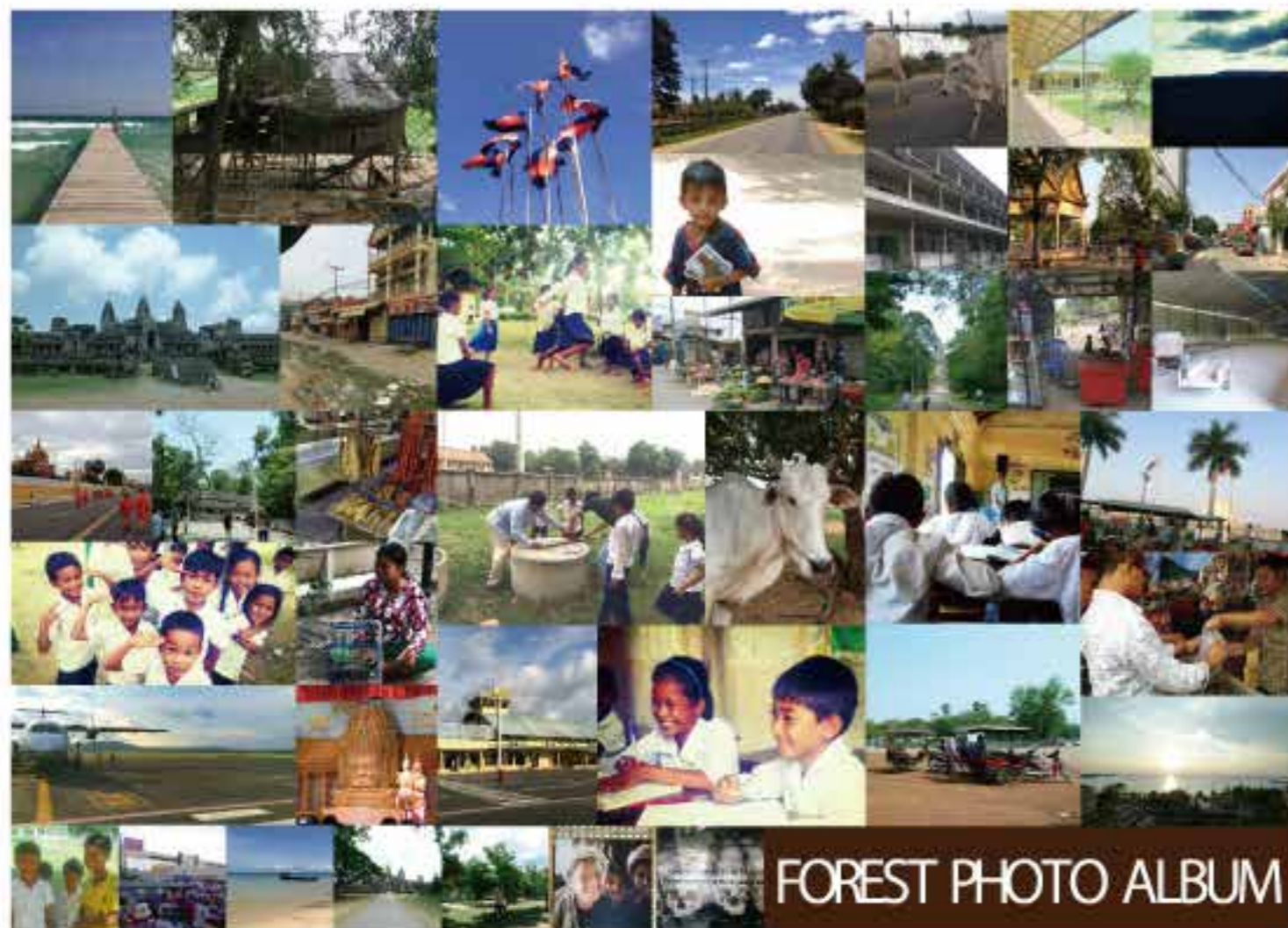
FOREST EYE ACTIVITY LETTER

年次報告書

2014



FOREST
Bless to you ...



MISSION

- ・現在（いま）を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

VISION

- ・どんな子どもたちにも平等に夢を
- ・どんな子どもたちにも未来への希望を
- ・どんな子どもたちにも無限の可能性を
- ・どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

CORE VALUE

- ・子どもたちの可能性を大切にします
- ・人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
- ・自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
- ・最善の方法を常に探求します

CONTENTS

- 01. MISSION / VISION / CORE VALUE
- 02. CONTENTS
- 03. 団体概要
- 04. ごあいさつ
- 05. 国内事業
- 09. 1st PROJECT
- 10. 海外事業
- 12. 会計報告

特定非営利活動法人 FOREST
年次報告書
2014
FOREST EYE
ACTIVITY LETTER



-カンボジア Phum Thom
小学校の子どもたち-

7月、現地スタッフによるカンボジアPhum Thom小学校を訪問視察。カンボジアという国では、まだまだ子どもたち全員が当たり前前に学校に通えるという環境ではないため、ここにいる子どもたちは真剣に授業を聞いています。しかし、運営が出来ている学校でさえもそれぞれ問題を抱えている。この学校では飲料水用の井戸は枯れ、生活用水用の池は真緑に濁りきっているため、衛生環境は決して良いと言える物ではない。カンボジアではこのような問題を抱えている学校が多く存在するため、彼らが安心して学校生活を送る事が出来るように、そして子どもたちの笑顔が見続けられるようにまだまだ支援していく必要があります。

団体概要



世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest(フォレスト)は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、産まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないように、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forestは、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。
そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

本部：〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6

支部：〒8150-042 福岡県福岡市南区若久6-24-8

T E L 011-272-7716

F A X 011-272-7715

E-MAIL info@forest-japan.org

W E B http://forest-japan.org/

設 立 日	2013年12月3日
法 人 設 立 日	2014年4月8日
代 表 理 事	小野塚 舞
理 事	用川 則幸 / 町田 武文 賀来 友麻 / 岡部 憲幸
監 査	植西 圭

ごあいさつ

私達は2013年12月に子どもたちに繋がる支援を進めて行こうと、この団体を立ち上げました。透明性のある運営を軸とするため、立ち上げ後すぐに法人格取得の準備を進め、4ヶ月後無事にNPO法人としてスタートする事ができました。しかし、その頃の日本国内ではNPO関連の良くないニュースが頻繁に報道されるようになり、これらのニュースの影響からか、残念な事に「今はNPO法人と聞くと悪いイメージを抱いてしまう」というお声を頂く事もありました。立ち上げたばかりで活動実績の無い私たちが、信用を得るということは非常に難しいものなんだということを痛感した1年でもありましたが、その中でも私達という人間を理解し、そして活動内容の必要性に共感して頂ける方が1人、また1人と増え支援やご協力を頂いたお蔭で今期は孤児院の運営に対する見通しがたつまでになり、本当に心より感謝しております。少数で活動を進める小さな団体のため、スピード性や大々的な活動を進めて行くことは難しいかもしれませんが、今期出会えた方達とのご縁を大切に、子どもたちが、子どもたちらしく居ることができ、可能性やチャンスをつかみ取ることのできる環境づくりを皆さまと一緒に目指し歩んでいきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

国内事業

JAPAN

CORPORATE WEB CLEAN PUBLICITY



CORPORATE

持続可能な支援を目指して

26年1月より、NPO法人の認証取得に向け、準備を進めて参りました。

初めての手続きに戸惑い、中々思うように申請書類が進まず、右往左往致しましたが、札幌市役所で担当者の方にアドバイス等を頂き、4月3日、札幌市からの認可を取得する事ができました。取得後の4月8日、NPO法人として設立登記が完了致しました。

WEB

わかりやすいホームページを目指して

フォレストのホームページは株式会社niveau(ニボー)さんの全面協力支援のもと、完成させる事が出来ています。

私たちは4月の法人設立と同時にホームページの制作へとりかかりましたが、制作当初、出来るだけ費用を掛けたくないという思いから、自分たちで各パーツの制作に取りかかりました。しかし、その道のプロではないため、なかなか納得の行く物が出来ずにおりました。そんな中、縁を通じてご紹介頂いたのが、ニボーさんになります。今回こうしてニボーさんの全面協力を頂いたことで、私たちの活動内容がより伝わりやすいホームページを完成させる事が出来ました。



CLEAN

モエレ沼芸術花火さん主催でスタートした「日本一たのしいゴミ拾い」に26年9月22日よりフォレストも参加させて頂きました。

2月8日の札幌雪まつりからは毎週開催されており、フォレストとしては4回ほど参加させて頂く事が出来ました。今期は、札幌市で公益活動を行っている団体さんやボランティアの方たちと協力しながら活動をさせて頂く事が出来ました。



PUBLICITY

【ブックレット作成】

世界には今をそして未来を悲観している子どもたちが多く存在しています。そして、どの子どもたちも沢山の可能性を秘めた原石であり、未来にとって大切な宝物で現在、支援を必要としています。この実情を多くの方に知ってもらいたいという思いから無料のブックレットを作成しました。12月中旬より、配布を開始し各企業さまや店舗さまに置いて頂きました。



【ラジオPR】

2月12日からフォレストの理事メンバーの賀来がパーソナリティを務めるラジオ番組を通じフォレストの活動PRを実施致しました。

隔週水曜日14時から放送がスタートし、3月末までに合計4回PRをする事が出来ました。このPRをきっかけに日本を越えて、ドイツやカルフォルニアに住むリスナーの方からもフォレストの支援活動に対する応援メッセージ等を頂きました。

【放送内容】

①フォレストとは ②カンボジアについて ③貧困や苦境を強いられている子どもたちの現状 ④カンボジアの教育事情



国内事業

JAPAN

SNS

CHARITY

CHARITY-EVENT



SNS

新しい支援のかたち【gooddo】

8月ソーシャルグッドプラットフォームであるgooddoの参加審査を通過し、クリックだけで出来る支援が10月下旬よりスタート致しました。10月～翌年3月までに集まった応援金額は合計45,514円でした。スタートしてから約5カ月という期間で、ここまでの金額を集める事が出来たのはフォレストにとって非常に意義のある支援方法の1つとなりました。1つ1つの積み重ねが重要であるということ念頭に、来期は平均2万ポイントを維持出来るよう呼びかけ等、広報の仕方を工夫し行って行きたいと思えます。



【WEB】 <http://gooddo.jp/gd/group/forestjapan/>

CHARITY

【ONE PIECE FOR PEACE】

あなたのpieceがあの子のpeaceへ繋がるを合言葉に6月より ONE PIECE FOR PEACE プロジェクトがスタート致しました。このプロジェクトは「名刺」や、お店で利用する「ショップカード」をチャリティ名刺やカードにすることで、1枚あたり1円の募金に繋がる支援の仕組みとなっています。今期は名刺以外でも封筒やパンフレット等の印刷物で沢山の企業様にご協力、ご参加を頂き、合計42,100pieceを集める事が出来ました。また来年度、札幌大成さまのお歳暮ギフトでも ONE PIECE FOR PEACE のご協力を頂ける事が決定致しました。



CHARITY 参加企業様一覧

※敬称略・順不同

ONE PIECE FOR PEACE

●有限会社 バイオニアスピリッツ	●株式会社 グラッシュ
●株式会社 Humanistic	●LUCYS INTERNATIONAL
●株式会社 T A I S H I	●株式会社 恵水産
●有限会社 コミュニケーションズ	●あんしん FP パートナー 株式会社
●株式会社 BRAVE	●株式会社 駿コーポレーション
●S-TEC	●F・L コミュニケーションズ 株式会社
●合同会社 ビーワークス	●度せさせ屋本舗 BEAUTY SALON LABOLABO
●北海道配管	●株式会社 ジーオーク
●株式会社 Assurance	●株式会社 MOHRD
●ほぶら社会保険労務士法人	●スナック リキ車
●CHAVDA	●リラクゼーションサロン プリアンドール
●BLOGAD	●馬場保険事務所
●design studio TANQ	●WAGAO 株式会社
●株式会社 チーム K	●Omotenashi Company
●F・L エンジニアリング 株式会社	●株式会社 トナ・コーポレーション
●株式会社 はなひなの社	●ホロニック札幌
●株式会社 ドラゴン・アロー	●有限会社 札幌オートサービス
●株式会社 Grayve	●株式会社 ユニオン・プラス
●株式会社 H・O・C	●ノースフォワード 株式会社

合計 44 社

CHARITY-EVENT

【チャリティスポーツ】

フォレストの活動を応援して下さっている森木章利さんに北海道倶楽部対抗競技【個人】の優勝2連覇達成を記念し、9月24日に第一回チャリティーゴルフコンペを開催頂きました。第1回目は16名の方にご参加頂き、合計24,000円の寄付が集まりました。今後もこういった企画を通じて、楽しいと支援活動が同時に共有する事のできるスポーツやイベントを企画していきたいと思えます。



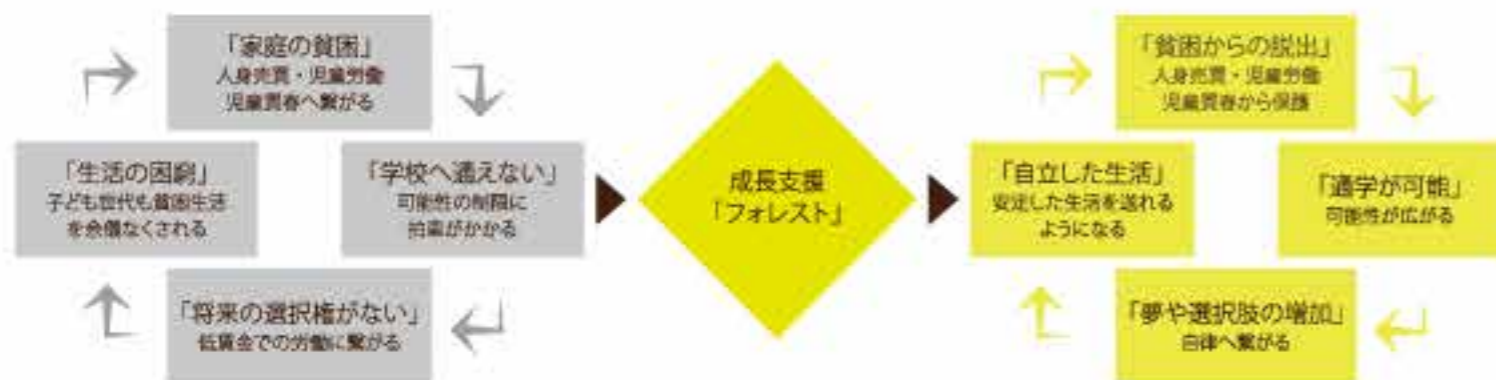
【森木 章年さん】

1st

PROJECT

子どもたちの
教育・健康・成長が守られる
成長支援活動

世界では現在、保健・教育・生活水準のうち2つ以上に欠乏を抱えた人々(多次元貧困人口)が約15億人いるといわれています。この中にはもちろん境遇により生まれた時から貧困であった子どもたちも存在しています。そして、その子どもたちの多くがチャンスや可能性を見出せず大人へと成長し、貧困生活を余儀なくされます。フォレストでは1st支援プロジェクトとして、そのような状況下で暮らす子どもたちの「教育・健康・成長」を守りたいという思いから、成長支援活動をスタート致しました。



現地調査/支援先決定

プロジェクト開始当初に支援先の協議を進めておりましたが、フォレストの活動を応援下さっている方達から「カンボジアでフォレストと同じ目的を持ち、孤児院開設に向けて活動されている方がいるので、紹介したい」というお話を頂きました。このことをきっかけにカンボジアという国や人について、そして内戦や現在の教育事情、日本との繋がりについて調べて行きました。

2014年3月、カンボジアの現地調査と孤児院視察を開始。孤児院の運営責任者である高田さんとお会いさせて頂き、孤児院の運営方針や子どもたちに対する想い等をお聞きする事が出来ました。

日本へ戻ってからもフォレスト内で、そして高田さんとも協議を重ねて行き2014年5月、双方の方向性が合致し孤児院仁舟の運営を通じフォレストで成長支援を行っていく事が決定致しました。



海外事業

CAMBODIA

地域概要

JINSEN



地域概要

1970年以降の内戦中には何もかもが崩壊し、現在は教育や貧困等の問題解決に向け、日本を含めた諸外国や支援団体の活動により、学校や孤児院を建設したり、物資の支援等が進められ徐々に回復してきています。しかし、貧困問題はいまだに深刻な状況となっており、まだまだ貧困下で暮らす子どもたちは多く、置かれている状況の数の分、子どもたちは心の問題を抱えています。ゴミ山で働く子。地雷で不自由を余儀なくされた子。人身売買に掛けられ売春を強要させられる子など。泣いても誰も助けてはくれません。そして更にこのような状況下で暮らす子どもたちは次の貧困の連鎖を生みだす、深刻な要因となってしまっているのが現状です。



孤児院「仁舟」について



孤児院名:仁舟(JINSEN)
所在地:カンボジアシアヌークビル
受入可能人数:最大60名

子どもたちには「知識で人生の選択肢を広げてほしい」「知恵で人生のチャンスを掴んでほしい」「愛情を受けて育ててほしい」という想いの基に、この孤児院は開設に向けて準備が進められて来ました。

仁舟は子どもたちが学校へ通いやすいよう、学校の近くにありますが、また、シアヌークビルはカンボジア南部のタイランド湾に面した港湾都市でもあり、カンボジアでは数少ない輸出拠点となっているため、支援物資等の運送費用も抑える事が出来るように考えられてこの場所に建設されていましたが、受け入れる子どもたちを「育て続ける」ための継続的な資金の確保が難しく、計画をスタートさせてから約4年、孤児院の建物が完成してからはすでに1年以上が経過しており、受入が出来ない状況にあったため協力を必要としていました。

海外 事業

CAMBODIA

パートナー代表の想い

支援開始

最終受入準備



パートナー代表の想い

カンボジアに住み始めてから、この国の子どもたちの現状を見て、この子どもたちを助けてあげたいとずっと思っていました。その想いに反して心の中はモヤが掛かっていた。あるときふと思ったのです。助けてあげたいというのは自分のおごりではないかと。子どもたちの心を救ってあげるといふ事は出来ないかもしれないが、チャンスを与えてあげる事はできる。ならば1人1人に愛情を持ってチャンスを与えてあげられる環境を作ろう。そう決めて現在も活動を続けています。



支援開始

たくさんの方のご支援、ご協力のもと2015年2月、再度カンボジアへ訪問し、運営開始に向けての支援がスタート致しました。カンボジアでは、5月下旬～10月下旬までが雨季となりますが、定刻に強い雨が降るため、今回の支援は雨季対策のための施設の最終工事と、そして子どもたちが生活を送るための生活費用品や家具等を揃えるために使用されます。また、来季には孤児院の運営スタートのことも可能となり、現在は子どもたちを受け入れるための準備を進めています。



最終受入準備

現在、孤児院の開園に向けて必要な手続き、申請をカンボジアで行っております。各手続きが完了次第、備品の搬入など最終の受入準備を予定しております。しかし、計画のスタートから随分な時間が経過していた事もあり(日本でも公的機関での申請手続きには時間を必要としますが、カンボジアでは更に時間が必要となるため)なかなかスムーズに進む事が出来ない状況ではありますが、開園に向けて着実に準備を進めています。

